

二・二六事件



*新聞文庫 大阪朝日59「大阪朝日新聞号外」

解説

1936（昭和11）年2月26日早朝、皇道派青年将校らは武力による国内改革をめざし、首相官邸・警視庁などを襲撃し、内大臣斎藤実、大蔵大臣高橋是清、教育総監渡辺錠太郎を殺害し、侍従長鈴木貫太郎に重傷を負わせました。その後陸軍省・参謀本部・国会・首相官邸などを占拠しましたが、翌日戒厳令が布かれ、29日に鎮圧されました。

クーデター自体は失敗に終わりましたが、この後、統制派軍部の発言力が増し、軍備の拡張が一層進められました。

写真左は、事件後の報道規制が緩和された翌月22日に事件の詳細を報じた大阪朝日新聞の号外です。事件当日の様子が関係者の証言を交えて記されています。写真下は人違いにより難を逃れ、奇跡的に救出された岡田首相の様子が書かれている部分です。



*当館新聞文庫に、二・二六事件翌日の大阪朝日新聞の紙面の複製があります（新聞文庫 その他1）。